

# しのめ

発行 ● 鳥取県立鳥取東高等学校同窓会 東雲会

鳥取県鳥取市立川町5-210 〒680-0061

TEL 0857-22-8495

FAX 0857-22-8497

Eメール torie-h@mailk.torikyo.ed.jp

出版 ● 株式会社 サラト

兵庫県姫路市北条宮の町172 〒670-0948

TEL 079-284-1380

FAX 079-224-7746

題字 柴山抱海氏 (特別会員)



第1回東雲会長杯ゴルフコンペ 開会式の挨拶 (鳥取カントリー倶楽部&lt;吉岡温泉コース&gt;)

(左から) 谷口 肇 事務局長 安住庸雄 実行委員長 八村輝夫 大会会長 橋本和憲 実行副委員長

## 第十号を発行して



鳥取東高等学校同窓会東雲会

会長 八村 輝夫 (山7)

同窓会報「しのめ」第10号をお届けできることを、本当に嬉しく思います。また、有難く思います。

第1号を発行する時、何時まで続けられるだろうか、少なくとも3年は続けて発行できるだろうか、その先はどうなるだろうと心配していました。皆さんが読んで頂けるものを作らなければ、皆さんに会費として発行費用の拠出をお願いできないと、編集委員の方々に知恵を絞って頂きました。カラーもとりました。お陰さまで第10号の発行に漕ぎつきました。皆様のご支援のお陰だと心から感謝申し上げます。

学校も人の価値を判断する一つの基準になっています。学校が立派であれば、世間の見る同窓生の評価も高まります。同窓生は自分の母校を自慢したいので、後輩を応援します。しかしそれだけではありません。同じ学校で数年間一緒に勉強したというだけで、同窓生には何となく親しみを感じます。単に同じ学校の出身者だというだけで纏まれるのです。青春時代の思い出を共有する者の集まり

と云っていいかもしれません。そして思い出を共有することにより親しみを持つのだと思います。卒業生全員がそのような親しみと関心を持つ学校が良い学校と言えるでしょう。同窓会事務局としては、皆様に母校に関心を持ち続けて頂き、いろいろ応援して頂くようにしてはなりません。会報の役割は、学校の現状、先生の消息、卒業生の活躍状況、在学生の活躍情報などをお伝えすることで、母校への関心を持って頂き、母校を応援して頂くことだと考えます。そこで同窓生の皆さんのご協力が必要です。同級会を開いたとか、先生の叙勲祝賀会をしたとか、同窓生が仕事の上で大きな成果を上げたとかのニュースをも教えて欲しいのです。

とりあえずゴルフ会を開くことにして、顔を合わす機会を作りました。ご参加をお待ちします。事務局にも顔を出して頂きたい。活発な同窓会にし、それを皆様にお伝えしたいのです。皆様のご支援をお願い申し上げます。

## ご挨拶 東高の今

校長  
藤原 辰広  
(山25)

平成十五年十一月にしのめ館が完成し、二階に同窓会事務局の部屋ができました。これが契機となって「同窓会報」も発刊されるようになったのではと思います。節目となる第十号の発刊、おめでとうございます。

いに切磋琢磨して文武両道を実践しています。学校としても、生徒が自立した心豊かな人生を送れるよう、学習活動や部活動などに主体的に取り組む生徒の育成に努めています。特に授業においては、教師による教授型授業から、生徒が積極的に授業に参加する生徒主導型の授業の構築に取り組んでいます。生徒同士が意見交換を行うことで、課題解決能力やコミュニケーション能力の向上につながっています。

ところで、皆さんが高校生の時、一学年何クラスだったか覚えておられますか。現在の二、三年生はハクラスですが、今年度入学した一年生から七クラスになりました。少子化による影響からやむを得ない措置です。県内では、この十五年間で十五歳人口が約二千五百人余り減少しました。鳥取県教育委員会は今までは各学校の学級数を減少させることで対応していましたが、今後も続く人口減に対応するため、平成三十一年度以降の県立高校の在り方を検討しているところです。

このような状況ですが、生徒は鳥取東高の伝統を受け継ぎ、仲間との和を大切にしながら互

いに切磋琢磨して文武両道を実践しています。学校としても、生徒が自立した心豊かな人生を送れるよう、学習活動や部活動などに主体的に取り組む生徒の育成に努めています。特に授業においては、教師による教授型授業から、生徒が積極的に授業に参加する生徒主導型の授業の構築に取り組んでいます。生徒同士が意見交換を行うことで、課題解決能力やコミュニケーション能力の向上につながっています。

また、「鳥取学」という企画を立ち上げ、一人一人が生まれ育った「ふるさと鳥取」に対する郷土愛が持てるような取組もしています。一年次には地元企業、大学、官公庁の見学や鳥取東高または鳥取県にゆかりのある様々な分野の人を招いての講演会を実施しています。二年次には関西方面に出かけ、企業や大学を訪れたり、地域活性化の取組に触れたりすることで、鳥取県を見つめ直す契機としています。そして、どこにいても何らかの形で「ふるさと鳥取」を意識した生活のできる東高生を育てたいと考えています。同窓生の皆さんの、「鳥取学」へのご協力をお願いし、ご挨拶といたします。

## 東京支部

## 鳥取の童謡・唱歌を訪ねて

東京東雲会会長

鈴木 誠(山5)



四季を通じて山の幸、海の幸が豊かで、その上、起伏に富む海岸をはじめ美しい景勝に恵まれた故郷は、人が生活する環境としては全国でもトップクラスにあると思いますが、そのためか鳥取は童謡・唱歌の宝庫でもあります。

そんなことを再認識しようと昨年の東京東雲会総会(七月六日午後四時・霞ヶ関法曹会館)では、全国で活躍中のソプラノ歌手平岩佐和子さん(東京芸大音楽科卒業)をお招きして鳥取とゆかりのある「春の小川」、「紅葉」、そしてなつかしい「故郷」などを歌ってもらいました。その演技は手話を交えてのものであり、参加者全員手話も学びながらの楽しいひとときでした。

そのあとは恒例の年次総会に移り、会長の挨拶のあと、ご来賓の東雲会本部谷口副会長、東高の藤原校長先生のご祝辞をいただき、最近の鳥取や母校の近況報告をしていただきました。

西村前会長の発声による乾杯の後には、毎年恒例となっている抽せん会があり、小型テレビや女性用ハンドバッグなど多くの参加者に景品が当りました。この間会場は中華料理に加えてご来賓からの贈り物のトーフ竹輪、アゴ竹輪そして砂丘イチゴなどを賞味しながら談笑が続きました。

最後は山脈四回の八村義郎さんの閉会の辞でしめくくりました。八村さんには永年にわたり当会副会長としてご尽力いただきましたが、今年一月突然の訃報に接しました。心からご冥福をお祈りします。

## 東海支部

## 平成25年度東雲会

## 東海支部活動報告

東海東雲会会長

中川 澄(山17)

H25・8・3(土)

東雲会定期総会・懇親会に出席

H25・9・29(日)

支部総会案内の発送

H25・10・12(土)

東雲会東海支部総会・懇親会



東雲会会長 八村 輝夫氏・鳥取東高校長 藤原 辰広氏を鳥取から来賓としてお迎えして開催いたしました。少人数ではありましたが、同窓会から差し入れて頂いた諏訪泉(1.8ℓ)のお陰で酒も進み、母校の話題などの話で大いに盛り上がりしました。

来年は是非とも参加者を増やしましょうと話して散会しました。平成25年度後半は予想通りアペノ

ミクスには陰りが見えましたが、中国・韓国との対立により、ナシヨナリズムが盛り上がり、安倍内閣の支持率維持に貢献しているようです。ナシヨナリズムの行き過ぎが悲惨な結果を招いたことを詳しく知っていると自負する私は、知人には、警戒しなければと話しています。

中国・韓国の反日の行き過ぎにも怒りを覚えますが、大人の対応が必要と考えます。

## 京阪神支部

## 第63回京阪神東雲会

総会・懇親会

当番幹事 大西紀子(山30)



去る平成25年11月16日(土)神仙閣大阪店にて、第63回京阪神東雲会総会・懇親会を開催致しました。八村東雲会会長様・河田副会長様・米田関西本部長様をお迎えし、京阪神・故郷鳥取はもとより、西は香川、東は神奈川から、93名が集いました。

京阪神東雲会の総会は当番幹事制で行われており、卒業35年の担当幹事は会場の選定や総会の運営を一任されます。この制度は我々の大先輩方が出された知恵で、これにより会を立て直し、今まで26、7年もの間続いていると聞きました。

我々山脈30回の幹事は総勢9名。それぞれが時間をやりくりし、助け合いながら頑張つて参りました。幹事の中には鳥取在住の「鳥取幹事」もおります。彼が一年を通して我々を支えてくれ、総会当日には大勢の同



しゃんしゃん傘踊り

窓生を応援団として連れて来てくれました。関西本部長の米田様が来賓挨拶の中でこの点を高く評価して下さいましたように、他の同窓会には無い素晴らしい形だと思います。

さて総会では、差し入れに頂いた豆腐ちくわに舌鼓を打ちながら、母校の学生たちの「書道パフォーマンス甲子園」の様子のビデオに涙したり、目録節・しゃんしゃん傘踊りを唄い踊ったり。クライマックスでは「鳥取県には温泉が10カ所ある。○か×か？」の問題から始まった「鳥取○×クイズ」で大盛り上がり！会場中、笑顔が満開の素晴らしい会となりました。

最後になりましたが、今後とも京阪神東雲会をどうか宜しくお願い致します。鳥取東高同窓会東雲会の更なる発展を祈念致します。

## 平成二十五年度 会務報告

★六月六日（木）名誉顧問の廣田幸一氏（柏6）の告別式が執り行われました。

廣田幸一氏は、昭和四十九年八月から平成八年八月までの長きにわたって同窓会副会長として、多大なご貢献をいただきました。また、第十三期（昭和五十七年八月から五十九年八月）の任期中途より小谷達郎氏の会長代行を務めていただきました。

平成十一年八月の定期総会で規約第十二条を改正し、名誉顧問を置くこととなり平成二十五年まで就任していただきました。さらに、平成年間野球部後援会会長として募金活動、日常の練習、大会等に熱烈なご声援をいただきました。

★六月二十一日（金）創立九十一周年記念式典が開催されました。多彩な催し事は五年とか十年とかの節目に行われる予定です。

★七月六日（土）東京東雲会総会が「法曹会館」で開催され、谷口肇副会長、藤原辰広学校長、竹島一郎先生に参加いただきました。

★七月二十日（土）第一回東雲会長杯ゴルフコンペが鳥取カントリー倶楽部（吉岡温泉コース）で開催され、六十一名もの多くの同窓生のご参加をいただき猛暑の中、大変な盛況振

りでした。平成二十六年度の開催要項は四ページをご参照ください。

★八月三日（土）本部同窓会総会が開催されました。総会懇親会には東海東雲会の中川澄会長（山17）、京阪神東雲会当番幹事の大西紀子氏（山30）をご来賓にお招きいただきました。昨年までの長きにわたってお世話になっていた「白兔会館」から「対翠閣」（しいたけ会館）に会場を変更しました。

★十月十二日（土）東海東雲会総会が開催され、八村輝夫同窓会長、藤原辰広学校長に参加いただきました。

★十一月十六日（土）京阪神東雲会総会が開催され、八村輝夫同窓会長、河田透副校長に参加いただきました。



八村輝夫会長の挨拶

### 同窓会報「しのめ」第9号の協力金納入の現況

同窓会員の皆さまには、毎年300万円を超える多額のご支援をいただきまして厚くお礼申し上げます。これも同窓会の結束・絆の強さの賜と誇りに思います。引き続きのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

第9号の協力金納入は次のとおりです。

（平成26年4月8日現在）は、

★会員宛発送数 21,486部  
★協力金入金件数 1,822件  
★協力金入金総額 2,821,800円 ③  
★郵便局への振込手数料

201,200円 ④

★③-④= 2,620,600円

★設定額（会報・封筒の印刷、郵送料等の必要経費） 3,054,610円

★還元金（設定額=必要経費を超える入金があった場合はその超過金額の8割が同窓会に還元される金額） 0円

★会報協力金（会報の原稿・写真の割り付け等の作業手数料として同窓会に振り込まれる金額） 300,000円

★第9号の納入状況は、昨年の第8号に比べて173件・375,200円減っています。一層のご支援ご協力をお願いいたします。

★なお、振込用紙をコンビニでも使えるものにしてほしいとのご要望がありますが、その場合、振込用紙に金額を印字しなければなりません。例えば、2千円以上を振込みされたい方はできなくなります。そのため郵便局用に使っていますのでご理解ください。

#### 鳥取東高等学校同窓会東雲会 定期総会・懇親会ご案内

日時 平成26年8月2日（土）午後4時  
会場 「対翠閣（しいたけ会館）」  
鳥取市富安一丁目84  
☎（24）8471  
議題 ①会務報告 ②平成25年度決算  
③平成26年度予算 ④役員改選  
⑤その他  
懇親会費 4,000円

#### 東京東雲会・夕べご案内

日時 平成26年7月5日（土）16時30分  
会場 「法曹会館」 千代田区霞が関1-1-1  
☎03-3581-2146  
会費 一般 5,000円 学生 1,000円

#### 東海東雲会総会・ご案内

日時 平成26年11月8日（土）  
12時～14時30分  
会場 「名古屋クラウンホテル」  
地下鉄「伏見駅」徒歩5分  
☎052-211-6633  
会費 男7,000円 女5,000円  
夫婦同伴10,000円  
初めての方3,000円 学生2,000円

#### 京阪神東雲会総会・ご案内

日時 平成26年11月15日（土）  
12時～14時50分  
会場 「神仙閣神戸店」（4F中宴会場）  
神戸市中央区下山手通2-13-1  
☎078-331-1263  
会費 7,000円（別途・年会費 一口1,000円）



第2回東雲会長杯ゴルフコンペのご案内

さわやかな初夏の季節となりましたが、会員の皆様にはご健勝にてお過ごしのことと存じます。

さて、昨年七月、第一回東雲会長杯ゴルフコンペを八村会長の発案、安住庸雄副会長の肝いりで鳥取カントリー倶楽部(吉岡)で開催いたしましたところ、六三名のご参加をえて、和気あいあいと親睦を深め、成功裡に終了いたしました。(橋本副実行委員長報告参照)

終了後の表彰式にあたって、今後の運営についてご相談した結果、第二回以後は、暑さを避けて秋の好日に開催することとなりました。

各卒業期、職域いずれでもご参加いただけます。東雲会員ゴルフア



第一回東雲会長杯ゴルフコンペの会場

鳥取カントリー倶楽部(吉岡温泉コース) 前方・右下が湖山池、その先に日本海が望める

が一堂に会し、秋の一日を楽しみつつ同窓生の親睦を図りたいと思いますので昨年を上回る多くの方のご参加をいただきますようご案内申し上げます。

東雲ゴルフ大会会長 八村輝夫

実行委員長 安住庸雄

副委員長 橋本和憲

大会事務局 谷口 肇

実施要項

一、日時 九月二八日(日)

開会式 午前七時五〇分

スタート 午前八時一六分

二、鳥取カントリー倶楽部(吉岡)

三、エントリー要領

卒業期単位、卒業期混成、

職域(東雲会員) 何れでも可

申込用紙に必要事項を明記

四、競技方法

ダブルペリア方式

五、参加費 一、〇〇〇円

(表彰式を含む)

六、プレー費 八、〇〇〇円

(食事つき)

七、表彰式 当日、会場にて

詳細は各組代表者に連絡します

八、申し込み 九月二日(金)締め切り

①従来、東雲ゴルフ会にご参加

の方には鳥取カントリー倶楽部

(吉岡)から往復乗書でご案内

いたしますのでお申し込み下

さい。

②ご案内の届かない初参加ご希

望の会員の皆様は

東雲会長杯

実行副委員長 橋本和憲

スポーツショップハート

Tel 0857-221-7711

にお申し込み下さい。

③その他、問い合わせ・お申し込みは(専任職員の勤務は火・木曜日)  
〒680-0061  
鳥取県鳥取市立川町5丁目210  
鳥取東高同窓会事務局  
TEL 0857-221-8495  
FAX 0857-221-8497

第1回東雲会長杯ゴルフコンペ報告

実行副委員長

橋本 和憲(山16)

第1回東雲会長杯(安住庸雄実行委員長)コンペが昨年7月20日に鳥取カントリー倶楽部吉岡温泉コースに於て猛暑の中63名の参加で開催されました。

一昨年の同窓会総会で安住氏が副会長に就任され、現在鳥取県ゴルフ協会の会長であり、個人的にも名「ゴルフ」愛を愛し活躍されていることから八村会長の発案で同窓会活性化の好機としてこのコンペが企画されました。第1回コンペの優勝者は大場敏光(山20)2位松岡良明(山16)3位奥村正行(山18)の各氏となり和気あいあいの中楽しい一日を過ごし、懇親を深めていただきました。

今年の第2回は夏の猛暑を避け9月28日(日)に同会場にて開催を予定しております。皆様誘い合わせの上多数の参加をお願いします。

東雲(しものめ)ゴルフ会の歴史は長く昭和55年頃、由宇喜三雄(柏1・初代会長)長石一郎(柏4)米原重(柏7)の3氏を中心に平野之致、大村大四郎、木村武生、市場幹雄氏等当時のゴルフ愛好者が集い由宇会長のホームコース日本海C.C.稲葉山コースを会場として実施されました。その後由宇会長の病氣療養を機に会長は岸良尚氏(柏16)、安住庸雄氏(柏16、

副会長)と引き継がれ現在に至り昨年で45回となりました。その間会場は鳥取カントリー倶楽部に移り春はネット成績上位による四高等学校対抗戦(東高、西高、八頭高、鳥商高)、秋は会長杯として年2回の開催で同窓会懇親を深めさらなる活性化を計っています。

高齡化しつつあるコンペを若い人、初心者歓迎でより楽しいコンペに致したいと思ひますので春・秋共に協力宜しく願ひ致します。

成績と参加チームの紹介

優勝	大場 敏光
準優勝	松岡 良明
3位	奥村 正行
4位	山本 智則
5位	中崎 勇吉
6位	家根 和弘
7位	森本 茂
8位	今西 正一
9位	横川 規幸
10位	岸本 睦永

(柏葉・山脈)

安住 庸雄

吉田 勇夫

岸本 睦永

清水 昭允

森 勲

天野 博太

八村 輝夫

(山8・山10)

伊藤 式

沖 廣俊

谷口 肇

土井 勝子

(山11・山12・山19)

浜橋 幸夫

松本 泰尚

中崎 勇吉

(山18)

奥村 正行

大橋 光吉

谷口 克男

矢芝 義博

(山19)

谷詰 和史

滝 俊夫

福安 益夫

円城寺正樹

(山17・山41)

山本 智則

井関 顕人

金澤 順子

吉田 淳也

(山17)

田中 幸雄

安藤 嘉美

木村 繁美

橋本 幸代

(山22)

澤口 睦男

山内 敏令

井上江美子

(職域)

山根 徹

山根 護

谷澤 讓

龜山 秀行

(職域)

熊埜御堂晋

豊田 讓

田中 耕二

(職域)



## 同窓会名譽顧問

## 廣田幸一氏(柏6)百歳翁のご逝去を悼む



九〇歳を越しても矍鑠として同窓会に出席され、少し遅れ気味でも頓着せず大きな声で二中の校歌を歌い、乾杯の首頭で「ながーいながーい野球部へのエール」を出席者は当然のように受け止めていました。

それは、廣田さんが誰よりも鳥取二中を愛し、鳥取東高を可愛がってくださったということが分かってい

たからでした。廣田翁が九六歳の時、旭日中級章を受章され、その時の述懐を聞き書きで文章化した時のことでした。『こんな出来のよい生徒だったけど、一所懸命生きてきたらこんな勲章をもらう事が出来ました』と受章の喜びを林重浩先生(二中初代校長)(鬼がわらゝあだ名)に報告したい。』と言われたことを忘れることができません。

八〇年前の恩師に、九六歳の生徒がこんな思いがある。これが二中の教育なのか！と深く感動するとともに、教師として胸にこたえるお話でした。しかし、これを聞いて廣田さんの鳥取二中と鳥取東高に対する母校愛の原点はここにあったと納得した次第です。

ご存知の方も多いと思いますが廣田さんは高齢になってもマラソンを走り続けてこられました。これは日中戦争に従軍され、多く

の戦友を失い、シベリアで死線を越えてこられた経験が地下水脈のように「命と健康の大切さ」を痛感されたことにあります。

そして「二度と戦争をしてはならない!」「平和であればこそ誰もが元気で生きていける」ということが、その後の廣田さんの労働運動や議員活動、日常生活を支えた理念だったのだと思います。

平成二五年六月四日、天寿を全うされ、戦地満州で待つ廣田さんのもとに嫁がれた最愛の奥さんにとられて旅立られました。

私たちの最大の痛恨事は、お元氣であれば毎日バックネット野球部の生徒たちを応援し「東高を甲子園に出場させたい」という廣田さんの悲願を眼の黒いうちに実現させられなかったことです。

私たちは林校長と廣田さんの間に生まれたような信頼感に結ばれた教育が鳥取東高に連綿と続くように支えたいと思います。

きな臭いにおいが漂う昨今の政治情勢を止め「二度と戦争をしてはならない!」という廣田さんの思いを大切にしたいと思います。

野球部の甲子園出場を応援し、宿願を果たした暁には廣田幸一氏の遺影とともに甲子園の銀傘のもとで校歌を高らかに歌いたいと思います。

同窓会名譽顧問 廣田幸一氏のご冥福を心からお祈り申し上げます。

東雲会副会長 谷口 肇

## 産みの苦しみと喜び

「しののめ」の創刊から  
10号の編集に携わって

しのめ初代編集委員長

東雲会副会長 谷口 肇(山8)



「母親でもない者が産みの苦しみがかかるわけがない!」とおしかりを受け

うな表題をいただいて書き始めました。

2万7千余人にも及ぼうとする大所帯の同窓会で同窓会報を持つていないところは少ないといわれ、同窓生の方からも、長年、同窓会報の必要性が言われ続けてきました。

しかし誰も「猫の首に鈴をつける者」がなかったのですが、80周年記念事業「しのめ館」の建設に伴って、

独立した同窓会事務局が誕生し機が熟したのです。その時、幸か不幸か私が同窓会事務局長の任にあたって

いたというわけで「鈴をつける者」になり、結果として自分の首に鈴をつけてしまったのでした。

仕事に着手するにあたり、引き継ぎがあつて、前例があつて、サンプルが整えられていれば大きな心配もなくスムーズにスタートすることができ

ます。しかし、冬山でラッセル(深雪の中を先頭になって道を拓く)するようなもので、見本も前例もなく、経験もなく、前任者もないいう予算もない状況で、まさに「闇夜に高足を踏

む」思いで取り組んできました。

ただ、いいことは、前例も前任者もないということは、すべて自分の頭で考え自分たちの発想で編集方針を立て新しいものを創り上げていけることです。

編集委員の英知を集め、編集方針から原稿の依頼、そして割り付け、写真の選定など、まさに「産みの苦しみ」と同時に喜びを感じながら取り組んできました。

創刊号のゲラを手にした時、専任の横山清恵(山12)さんとともに手を取り合うようにして喜びを分かち合ったものです。

それから今日までわが子を育てるような思いで携わってきました。そして、やっと10歳の誕生日を迎えました。そして、新しいお父さん(現在の編集委員長 森本政司・山11)やお母さん(村上千春・山39)ができて立派に動いています。

私は、これからずっと「しのめ」の成長を見守り続けていきたいと思っていますが、「かわいい孫を楽隠居が可愛がるように支えさせていただければありがたいと思っています」。

## 「縁の下」の力持ち!

「しのめ」を支えて

前事務局専任 横山清恵(山12)



前号で、私の挨拶を載せていただき、すっかり肩の荷を降ろしておりま

したところ、この度は「しのめ」一〇号記念特集ということで、編集における「縁の下」のタイトルで原稿依頼がありました。創刊号から九号まで、編集方針に従って専任事務局長の谷口先生の過酷な指示のもとで、資料集めを課せられたわけです。「ターイヘン」と思いながらこの仕事に携わっていましたが、お陰で、目の前の小さな事柄でも東高のことなら、常にアンテナを張り資料の収集に心がけるようになりました。「備えあれば憂いなし」たえそれが、編集方針と異なっていたとしても、いつか役に立つことがあるかも知れないとため込んできました。

一〇年の勤務の中で、新聞記事だけでなく、校舎のちよとした移り変わりとか自然風景もカメラに遺すことを楽しむようになりました。これは今も日々の暮らしの中で生き続けており、私にとって大切な遺産となつていきます。

最後のころになって、求められれば「はい!ここにありますよ。」と資料が出せるようになり、少しは「縁の下」の力持ち!になったような気がしてきました。

記憶だけでは表現することが難しいことも、資料があれば思い出し、何かを生み出すやすくなります。

資料収集は地味な仕事ですが、やがて一〇周年を迎える鳥取東高の現在は、時々刻々と移り変わっています。

会報「しのめ」がこれからも続刊され、一号一号が貴重な資料となることを祈りつつ筆を置きます。



# 同窓会報 **しのめ** トビラ写真のあゆみ (創刊号～第9号)

・題字 柴山抱海氏 (特別会員)



<第3号> 2007.1.31～2.3 (氷ノ山スキー場)



<第2号> 平成17年9月9日 中庭でサッカー部 カラオケ大会出場 (東高祭 第2日目)



<創刊号> 正面から見た母校正門、左側が新築された同窓会館「しのめ館」

鳥取二中草創期の功労者の掛軸三幅  
林 重浩鳥取二中初代校長(廣安主一歌) 徳田平市翁鳥取二中創立功労者  
[克己実践] 長本實治鳥取二中2代校長(宝誠一貫道白通(右より))



<第6号>



<第5号> 第9回「彩光写」展 日本大判写真家協会「残照夢幻」吉澤延尚(山7)氏



<第4号> 校舎全景 2004.10 撮影

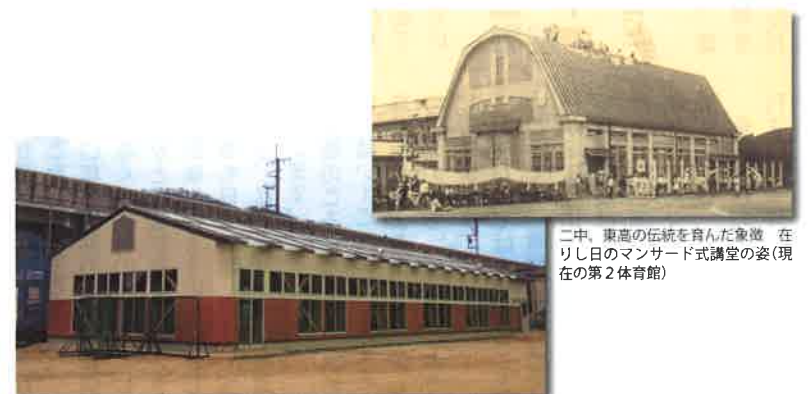


第5回全国高校生書道パフォーマンス甲子園 優勝(愛媛県四国中央市・川之江体育館) 平成24.7.29  
中央の文字は「飛翔」

<第9号>



<第8号>



東高の新しい伝統を生み出す拠点  
新築なった運動部のための屋内練習場  
二中、東高の伝統を育んだ象徴 在りし日のマンサード式講堂の姿(現在の第2体育館)

<第7号>



# しのめ 2万7千余名同窓会員をつなぐ絆

## 心の絆

名古屋市在住

谷口 卓 (柏11)

同窓会報「しのめ」は、毎号楽しみにして拝読しています。

私は、昭和13年3月、当時の鳥取第二中学校を卒業して山口高等商業学校に進学しましたが、爾来今日までの76年間は、鳥取を離れた会社勤めの人生でした。

しかし、10代の青春時代を過ごした思い出は今でも鮮明に記憶として残っています。

私達の時代は大戦前夜で、学校では配属将校による軍事訓練が行われ、男子20歳で徴兵検査が義務付けられ、2年間の兵役が当たり前の時代でした。その様な時代にあっても、自由と規律に裏打ちされた闊達な雰囲気の中で、伸び伸びと学園生活を楽しめた2中の校風に感謝したいと思います。

現在の東高の生徒諸君は、良き伝統を継承されて夢多き学園生活を送って頂いていると確信します。この良き伝統は何時までも後輩に引き継いで頂きたいと願います。

会報「しのめ」は、郷里を離れて他県にあっても、懐かしいふる里との心の絆として、益々内容の充実した編集をお願いしたいと思います。

記事の編集担当の委員の方々には、ご苦労をお掛けしますが、我々卒業生にとって、この会報は郷里との大切な絆だと思いますので、是からも宜しくお願い申し上げます。

## 最近想う事

浜本 英子 (山2)

映画「永遠の0」を観て、涙した一人です。子供でしたがあの時代を生き

た者として、胸が詰まりました。新聞を読まなくても、朝礼で校長先生のお話を聞けば、凡その状況は判ります。

六年生の春、飛行機の只ならぬ音に窓に寄ると、学校に一番近い農家の藁屋根の上に、老夫婦が日章旗を振り手を上げておられるのが見えました。搭乗員の顔が見えそうな位の低空で、お家の上を二、三回旋回して中国山脈の方に消えて行きました。お別れに見えたナと思いましたが、十八年には大学生の徴兵猶予も解かれて、多くの文科の学生がペンと銃に持ち替えて国の礎となる覚悟で前線に送られたのです。『花も蕾の若校』の歌詞を思い出すだけで胸が痛みます。

映画の中の大学生が「特攻と自爆テロと一緒にだろ」と言う台詞があり、唖然としました。

平和しか知らない当世若者の認識かと考えさせられました。鳥取は空襲こそありませんでしたが、戦中戦後悲惨な体験をしましたから戦争は否定します。靖国事がとやかく問題になりません。公人は慎重であるべきでしょうが私達個人は忘れられないと思います。母校からのたった一つの絆であるこの「しのめ」を手にする度に在学の頃の思いがよみがえるのです。改めて昭和史を読み直したいと思っております。

## 鳥取東高の思い出

三浦 二雄 (山6)

東高ではいい生徒ではなかった。

米里小・邑法一中を経ての入学で、町の学校はまぶしかったです。

学科のほうも、市内の中学（東、南、附属など）からきた同級生に見劣りすること甚だしく、英語のフレーズとかクローズなどを知らず、同級生に教えてもらいう始末だった。

問題は数学、まるきり落第点のみで、よく卒業できたものだ、いまでも冷

や汗をかく思いだ。

一方、課外活動では環境に恵まれていた。

図書部というのに属して、自分の読みたい本を、ひそかに予算書の中に忍ばせ、目的を果たしたり、「禁帯出」本を内緒で「常連」の女生徒に貸し出した。

いっぽう文芸部は「むせ」という名前の作品集を発行。ここにくつつか詩を寄せていた山根章君（山6）は、若いときから人形劇を志し一昨年、舞台55年、劇団（ボポロ）創立40年を迎えた。彼の役割は表向き「脚色・主演」だが、実は団員を連れて自分で運転して全国を巡る主催者で、総責任者である。東京の同期生の会「山六」一同公演を楽しみにしている。ますます活躍を祈る。

今は第一線を退き、鳥取を離れて久しいが、この「しのめ」が同窓の妻（山9）と母校をしのぶよすがとなつてい

## 「私にとっての

鳥取東高等学校とは」

花島 康浩 (山44)

同窓会報「しのめ」が創刊十周年を迎えるということで寄稿の依頼があり、卒業してから二十数年経った今、改めて自分にとって東高がどんな存在だったか思い返してみました。

家も高校の近所にあり、父親と姉が共に同校の卒業生であったため、東高は非常に身近に感じることのできる学校でした。そのため、当時の自分は東高以外の高校に行くなんてことは考えたこともなく、合格発表で自分の名前を見た時にはほっとしたと同時に、これで晴れて東高生の仲間入りができるのだと非常に嬉しかったのを今でも覚えています。

そして実際に三年間の高校生活を送ることになった東高は、他の卒業生の

方にとってもそうだったように、自分にとって大切な「出会いの場」となりました。今でも年に数回連絡を取るサッカー部の仲間との出会い。色々と迷惑をかけながらも親身になって指導してくださった恩師との出会い。そして何より人生の伴侶との出会い。素晴らしい出会いを提供してくれました。



## 母校に勤務する

教職員の立場から

竹島 一郎 (山31)

大学に進学した年の夏だったか、同期の常任幹事となっていた私は、旧同窓会館（現しのめ館）で開かれた東雲会総会に初めて出席した。「学校の前に真直ぐ道を通す」という当時の同窓会長の発言に、民家があるのにそんなことできるものかと思ったものだった。

それから幾星霜。その道（志望の道）の完成記念セシモノーに教職員として立ち会うようになっていた。

創立八十周年の時には、記念誌の編集に携わることとなり、第五章の年譜の最後を「研鑽を師弟一体となつて積んでいくことが、結果として伝統を築いていくことになるのだと信じたい」と結んでいる。

数年後、どこかで定年を迎えることとなるが、それは何故か母校の創立百周年の年と重なっているのである。

## 「しのめ」の魅力

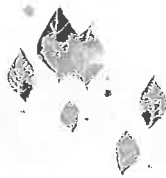
(株)サフト 恒田 祐介



年間いくつもの同窓会報の発行をお手伝いし、その完成を目にしますが、原稿量豊富で充実した内容の「しのめ」完成は特に待ち遠しく、頁を開くといつ読み入ってしまいます。一般的には総会の様子、学校の近況を報告する等の形骸化した内容となる場合がほとんどですので、毎年異なるテーマで記事を企画、掲載される「しのめ」は全国的に見ても特別です。

会報が出来るまでの編集委員の方々による準備も他校とは比べものになりません。発行の半年前から会議を重ね、資料収集や内容の試行錯誤を繰り返されています。これは会員の皆様へ「より良いものを届けたい」という想いがあってこそだと思います。また、寄稿いただく会員の方、発行協力金を納入いただく方をはじめとした会員皆様の同窓会への帰属意識の強さも別格であり、「しのめ」の発行ひとつを取ってみても同窓会の大きな結束力を感じます。

尚、弊社では今回も名簿作成作業を進めさせていただきましました。ご予約、ご協賛、お葉書のご返信等、様々なご協力をいただきまして誠にありがとうございます。この場をお借りして御礼申し上げます。



## 同窓会事務局より

「サラト」ってなんだいや！

名簿の編集事業が始まってからこんな電話が盛んに事務局にかかってきます。

㈱サラトは姫路にある同窓会名簿の出版などを専門とする会社で、鳥取東高同窓会は、平成2年より、同窓会名簿第7号の発行以来契約を結び、名簿の管理だけでなく、同窓会報「しのめ」印刷、発送のお手伝いをしていただいています。ご承知置きください。

また、各期の同窓会にあたっては、当該期の名簿を抜粋し、連絡用シールを作成するなどのサービス（一学年分 約5,000円）も行っています。事務局にご連絡いただければご利用いただけます。

全国すべての県を網羅して、名簿・同窓会報の発行を手掛けておられる担当者から、過大とも思える高い評価をいただいて「しのめ」編集局は感激しています。今後の大きな励みになります。

会員の皆様に喜んでいただける同窓会報にするべく頑張ります。

## (株)サラト 会社の紹介

住所 兵庫県姫路市北条宮の町172 電話 079-284-1380

昭和48年創業以来、同窓会名簿専門会社として活動。従業員200名が業務に携わっています。

北海道から沖縄まで全国で約1,600校の同窓会活動をサポートし、年間で約180校の同窓会名簿を作成しています。

鳥取県内では、14校が契約しています。

本校同窓会は、平成2年の同窓会名簿第7号から契約しています。

㈱サラトは、個人情報保護法の成立（平成15年5月）以前の平成13年3月にプライバシーマークを取得。2年毎に行われるプライバシーマークの厳しい更新審査をクリアし続けている会社です。

## 糸賀一雄先生生誕百年に寄せて

この子らを世の光に



糸賀一雄氏(柏4)

＜写真提供：(公財)糸賀一雄記念財団＞

「日本の文明を質的に高めた」と、その早過ぎた突然の死の翌朝に追悼報道された本校の前身、鳥取二中で学ばれた、日本の知的障がい者福祉教育の父として尊称されている糸賀一雄（一九一四～一九六八）先生は本年、生誕百年を迎えた。

京都大学哲学科を卒業された糸賀先生は、敗戦後の大混乱の時期、エリートコースの職を離れ、暗い谷間に忘れられた知的障がいの子どもたちや、ちまたに浮浪する戦災孤児らの収容施設として滋賀県大津市に近江学園を創設されたのは一九四六年の晩秋であった。

食糧難と貧困の米軍占領下、園児や教職員ともども家族ぐるみで生活。同じ釜の飯を食い、寝食を共にしながら四六時中勤務というすさまじい環境のなか、ひたすら子どもたちのため、劣悪な学園の整備充実に向かって出帆。

行動することこそ思索し、思索しながら行動した先生は、その実践の最前線で、

年長児対策として近江学園周辺に一妻寮、あざみ寮、信楽学園を。そして関東は千葉県内に鉄道弘済会との協力で日向弘済学園を開設した。

先生の私心なき情熱と崇高な人格に心打たれた十河信二元総裁は「彼こそは神様がわれわれ人間に求めた理想的な性格を磨きあげた数少ない人ではないか」と語った。

さらには、重症児の落穂寮、重症心身障がい児のびわこ学園と次々に開設。法もなければ予算も付かない間、先生は知的障がい者施設の緊急性・必要性について政府、滋賀県はもとより一般社会へも訴え行動していく。

道がなければ借金をしてでも自ら道を築き、その後を法の制定や予算がや々と追いついてくるという、まさに想像を絶する先覚者としてのイバラの道を刈り開いていく。

先生は語りかける。「この子らに世の光をあててやろうというあわれみを求めているのではなく、この子らが自ら輝く素材そのものであるから、いよいよみがきをかけて輝かそうというのである。この子らを世の光に“である”。

実践と思索の途で生まれ、世を照らし始めたこの哲学的福祉教育の思想は、単なる言葉ではなく、この思想の水底に流れる人類の根源的な英知としての震えが

柔らかく伝導し、固く閉ざされていた世の人びとの心を動かし開かせはじめた。67年朝日賞。68年初秋、「この子らを世の光に…」と講演で熱く語りながら齢54で燃え尽きた。

鳥取二中同級の小倉親男京大助教授は当時の日本海新聞に「子どもたちには慈父を思わせるあの柔和なまなざしと情熱は、実に中学時代からのものであった」と哀悼の言葉をさげた。

NHK TVでは近年、湯川秀樹や手塚治虫等と並んで、次世代へつなげるメッセージとして先生の偉大な足跡を放映した。

世の人びとにその生きざまから感動と感銘を与え続けた先生の功績をたたえた糸賀一雄記念賞創設十数年を経た今日、国内外の受賞者たちがそれぞれの国や地域で「この子らを世の光に」と、今も人類文明の質的向上を目指して光を放ち続けている。

竹間 健一（山16）



柴山抱海先生書  
(個人蔵)



# 我ら同期生

## 「山六喜寿同期会」

宮本 卓郎（山6）

過ぎゆく時は矢の如く、山六の仲間も夭寿を迎えた。年齢とともに一層人恋しく、まして多感な十代山六の仲間となれば尚更のこと。三年毎の同期会も十一回を数え、二十五年五月、湯村温泉に五十名が集り、銘打って「山六喜寿同期会」。既に鬼籍に入った友を偲び、病床にある級友を慮り、年輪を重ねた味わい深い同期会となった。

次回は年齢のせいかやや腰がひけ、地元鳥取にゲタを預けられたが、「傘寿記念同期会」を実現したい、が同期生大分の思いであった。山六未だ健在、人生の最終楽章はまだ遠い。元気で「山六傘寿同期会」を。

平成25年5月23日 鳥取東校「山六喜寿同期会」 湯村温泉 佳泉郷 井づつや

## 鳥取東高校昭和38年卒業生 古希記念同窓会

谷口 大和（山14）

古希記念の同窓会には、県内外より69人の卒業生と恩師が集い、盛大に開催することができました。宇倍神社の神主による神事の後、物故者の恩師と同窓生に黙とうをささげ、宴席に移りました。古希の祝宴にふさわしい詩吟が披露され、和やかに青春時代の思い出話に花が咲き、脳がリフレッシュされた一日でした。最後に懐かしき校歌を合唱して、いつまでもシニアパワーを全開して、喜寿の同窓会には全員が再会できることを祈念しつつ閉会しました。



▷と き 10月12日 ▷ところ 温泉旅館・丸茂（鳥取市）  
「日本海新聞 平成25年11月28日掲載」

## 我ら東雲93軍団

幹事長 森下 大輔（山44）

（平成5年度卒業20周年記念 同窓会を振り返って）

昨年の8月に平成5年度卒業20周年同窓会をホテルニューオータニ鳥取で開催いたしました。おかげさまで、大いに盛り上がり、まさに盛会とはこういった事を指すのだらうと、改めて東高生のパワーを実感いたしました。会の始めは、ぎこちない方々もいましたが、そんな方々も懐かしい顔ぶれに触れ、一瞬で20年を巻き戻しているようでした。恩師の先生方のテーブルは人だかりの山で、数多くの方が、写真撮っていました。



鳥取県立鳥取東高等学校平成5年卒業（山脈44回）20周年記念同窓会  
平成25年8月13日 於 ホテルニューオータニ鳥取

また、会の最後に実施した全員での校歌斉唱も始めは歌えるかどうか半信半疑でしたがそんな心配事は杞憂に終わるほどの大熱唱で怒涛の2時間30分が終了しました。当然のように、ほとんどの参加者が2次会に参加し、話は尽きぬまま、5次会まで行った方もいるとか！

ご参加いただいた皆さん本当にありがとうございました。また、今回残念ながらご参加いただけなかった方も次回同窓会は是非ともご参加ください。

次回の開催は：まだお約束は出来ませんが、10年後って事の無いように（当時の学年主任の谷口先生からの強い要望です）したいと思います。

また、会おう、最高の同級生たちよ!!

## 平成二十五年年度

## 進路状況

## 京都大学に三名合格

平成二十六年度入試での本校の国公立大学合格者数は、一五七名でした。地元の鳥取大学に六十四名が合格し、京都大学には三名が合格しています。本年度のセンター試験では、国語と生物の平均点が低く、文系の生徒には厳しい入試でしたが、力を付けている英語を武器に二次試験にチャレンジし、特に京都大学には現役で二名が合格しました。

私立大学については、経済状況

## 進路部長 竹島一郎（山31）

を反映してか、センター試験を利用した出願であるとか、現役での合格を志向して志望する大学・学部を複数の受験方式で出願する傾向もみられます。

また、就職については、警察官及び消防士採用試験を中心に全員が合格しました。

なお、過去五年間の合格者の状況及び主な大学の合格者数は左の表の通りです（平成26年3月31日現在）。

	H22	H23	H24	H25	H26
国公立大	162	166	184	158	157
私立大	312	296	348	352	343
短大	36	42	32	42	31
専修学校	56	59	62	52	72
計	556	563	626	604	603

## 主な大学の合格者数

京都大学	3	岡山大学	11	早稲田大学	3
大阪大学	1	広島大学	3	青山学院大学	2
北海道大学	1	徳島大学	5	東京理科大学	2
神戸大学	2	香川大学	3	同志社大学	4
東京芸術大学	1	愛媛大学	6	立命館大学	24
静岡大学	2	高知大学	3	龍谷大学	31
京都教育大学	1	首都大学東京	2	関西大学	13
鳥取大学	64	九州工業大学	1	近畿大学	23
鳥根大学	2	鳥取環境大学	6	関西学院大学	10

二中也被災した  
鳥取地震から71年

橋本 巖

（山10）



今年、鳥取地震が発生してから71年に当たる。

鳥取地震は、1943（昭和18）年9月10日午後5時37分に発生した。M7.2、震度は最高の烈震だった。

地震は、旧鳥取市と周辺の村を一瞬にして瓦解させた。家屋の全半壊は1万3,000戸以上、死者は1,210人と記録されている。この地震で東高の前身である二中は、柔道場と寄宿舎が全半壊し、校舎も傾いた。わが家も倒壊、犠牲者が出た。

## 戦争抜きに語れない

鳥取地震の特徴は、鳥取市が沖積層の上に発達した街であったこと、夕方のため各所で火災が発生し被害を拡大した点である。加えて重要なことは、この地震の発生が戦時中だったことである。

当時、男性は二十歳で徴兵されていた。そのため、被災者救

出に後れをとった。軍隊は出動したが、官公庁の復旧、治安対策が最優先だった。助かるはずの命が犠牲になった。報道管制が敷かれ、全国紙は3面に小さく報道しただけで、その記事も4日後には消えた。

被災者の救援にも事欠いた。仮設住宅の建設はあったが、880戸しかなかった。食料の無料配付が始まったのは地震の2、3日後だったが、1週間後には有料となった。



地震直後の鳥取市街  
（鳥取市歴史博物館 提供）

そればかりではない。震災で生じた、鉄・銅から麻・絹など繊維類、新聞雑誌、ガラス屑まで「聖戦完遂」を目的に供出させられた。被災者は「地獄で追いはぎ」に会ったも同然だった。ある町内では、食糧支援がなくなることを想定し、「胃袋縮小運動」を計画していた。

## 地域の記憶を出版

鳥取地震の被害の実態は、今日も明らかにっていない。地震の翌年、県が被災の記録を纏めたが被災者の実態は厚いベールに包まれている。今日、体験者も減少し、記憶も薄れている。そんなことから昨年、筆者が育った湖南地域の被害状況を体験者の協力を得て本に纏めた『その昔大地震があった』鳥取出版企画発行。

寺田寅彦は「災害は忘れた頃にやってくる」と言った。しかし今日、「災害は忘れなくともやってくる」。それぞれの地域でかつての地震の被害を記録し、伝えるべき時のために後の世代に伝える必要があるのではなかろうか。



## 【全国大会】

部 名	男女	大 会 名	種目・成績等
バスケットボール	男子	全国高等学校総合体育大会 (大分県開催)	一回戦突破
		全国高等学校選抜優勝大会 (東京都開催)	出場
書 道		全国高等学校大作書展 (東京都開催)	大作優秀賞
		高野山競書大会 (和歌山県開催)	毎日新聞社賞・審査委員長賞・ 南山賞・高野山書道協会賞
		全国高等書道パフォーマンス甲子園 (愛媛県開催)	審査員特別賞
		第6回全国公募展「放哉を書く」高校生部 (鳥取県開催)	新日本海新聞社賞・放哉賞・秀作・佳作
		国際高校生選抜書展 (大阪府開催)	優秀賞・秀作賞・入選
囲 碁		全国高等学校総合文化祭 囲碁の部 (長崎県開催)	出場
放 送		NHK杯全国放送コンテスト (東京都開催)	アナウンス部門 入選

## 【県高校総体】

部 名	男女	種目・成績等	備 考
陸 上	男女	入賞6種目	中国大会出場
バレーボール	男子	団体2位	
	女子	団体2位	
新 体 操	女子	団体2位	中国大会出場
バスケットボール	男子	団体優勝	インターハイ出場
	男子	団体3位	中国大会出場
卓 球	女子	団体ベスト8	中国大会出場
		シングルスベスト8	中国大会出場
		ダブルスベスト16	中国大会出場
テ ニ ス	男子	シングルスベスト16	中国大会出場
	女子	シングルスベスト16	中国大会出場
ソフトテニス	女子	ダブルス17位	中国大会出場
サ ッ カ ー	女子	団体準優勝	
ボ ー ト	男子	舵手付クオッド2位	
		ダブルスカル2位	
		シングルスカル3位	
水 泳	女子	舵手付スカル2位	
		ダブルスカル3位	
		男子団体総合2位	
水 泳	女子	女子団体総合優勝	
		優勝6種目	中国大会出場
水 泳	男子	入賞上記以外8種目	中国大会出場

## 【県高校総文祭】

部 名	男女	種目・成績等	備 考
邦 楽 部		日本音楽 優秀賞	近畿高総文祭出場
吹 奏 楽		サクソフーン独奏 優秀賞	近畿高総文祭出場
		マリンバ独奏 優秀賞	近畿高総文祭出場
		オーボエ独奏 優秀賞	近畿高総文祭出場
書 道 部		連盟賞	近畿高総文祭出場
放 送 部		奨励賞	
		アナウンス部門 特別賞	来年度全国高総文祭出場
将 棋		アナウンス部門 奨励賞	
		第9位	近畿高総文祭出場

## 【各種大会】

部 名	男女	大 会 名	種目・成績等	備 考
バレーボール	男子	鳥取県高校新人戦	第4位	中国大会出場
	女子	鳥取県高校新人戦	優勝	中国大会出場
バスケットボール	男子	鳥取県高校新人戦	第4位	
	女子	鳥取県高校新人戦	準優勝	中国大会出場
柔 道	男子	鳥取県高校新人戦	第6位	中国大会出場
	女子	鳥取県高校新人戦	第3位	中国大会出場
卓 球	男子	鳥取県高校新人戦	団体ベスト8	選抜大会出場
	女子	鳥取県高校新人戦	団体ベスト8	選抜大会出場
テ ニ ス	男子	鳥取県高校新人戦	シングルス・ダブルス	中国大会出場
	女子	鳥取県高校新人戦	シングルス・ダブルス	中国大会出場
サ ッ カ ー	男子	鳥取県高校新人戦	優勝	
	女子	鳥取県高校新人戦	団体7位	中国大会出場
弓 道	男子	鳥取県高校新人戦	個人11位	中国大会出場

竹島 一郎 (山31)

二度目の勤務、通算十六年間母校の教育に携わらせてもらっている。その間、生徒も変わり、教職員も変わり、何よりも社会が変わってきている。

でも、目の前の生徒たちが、「東高を選んでよかった」と言って、卒業していく姿はひとつも変わらない。

そのことだけ、同窓の皆様にお伝えして、編集後記と致したいと思います。

編集後記

竹島 一郎 (山31)

## 部活動報告

中澤 雅樹 (山39)

鳥取東高校は文武両道を掲げ、それを高いレベルで両立させようと、生徒・職員ともに取り組んでいます。日々努力を重ね、多くの部が県内外で活躍しています。

文化部では、書道部が今年も全国高校書道パフォーマンス甲子園に出場しました。今年度は作風を変えて象形文字に挑戦し、2連覇を目指しました。残念ながら優勝は逃したものの、「力強く迫力のあるパフォーマンスであった」との高評価をいただき、審査員特別賞(全国4位相当)を受賞しました。高野山競書大会においても、団体奨励賞を受賞。個人でも毎日新聞社賞、審査委員長賞、南山賞、高野山書道協会賞を受賞するなど、今年も大活躍でした。

総文祭には囲碁の部で出場を果たしました。



放送部はNHK杯全国放送コンテストに出場。アナウンス部門で入選しました。

また、吹奏楽部、邦楽部、書道部が近畿高総文祭に出場。全国高総文祭には男子バスケットボール部が全国高校総体に5年連続の出場を果たしました。さらに2年ぶりに1回戦を突破しました。全国選抜大会にも5年連続で出場しており、全国大会へは10大会連続で出場中です。

水泳部も県総体において女子が5年連続の総合優勝。男子も総合準優勝。個人でも男女合わせて6種目で優勝を果たしています。



ウィンターカップ  
(東京都久我山高校との対戦)  
H25.12.25

運動部では、男子バスケットボール部が全国高校総体に5年連続の出場を果たしました。さらに2年ぶりに1回戦を突破しました。全国選抜大会にも5年連続で出場しており、全国大会へは10大会連続で出場中です。

その他にも県総体・県新人大会等での上位入賞や中国大会へ出場した部が多数あり、学校全体の盛り上がりが見られました。また、学校内においても部に所属している生徒は挨拶・服装・礼儀などがしっかりとされている者が多く、学校全体に締めまりある雰囲気を作ってくれています。大会結果だけでなく、これも部活動の大きな意義と言えるでしょう。

近年、県外大会で同窓会の皆様の声援を受けることが多くなりました。全国大会の日程・会場等を、本校HPにて随時お知らせしております。今後も大会にぜひ足を運んで